

資料の刊行

(昭和60年10月～12月)

<資料題名(発行年月日)>	<担当者>
「研究資料」	
○第238号(昭60.10.1)	阿藤 誠技官 伊藤 達也技官 高橋 重郷技官 石川 晃技官 池ノ上正子技官
戦後の日本人人口ならびに人口動態率改算の試み……………	
○第239号(昭60.11.20)	
第38回簡速静止人口表(生命表)(昭和59年4月1日～60年3月31日)……………	金子 武治技官 山本 道子技官
「実地調査報告資料」(昭60.10.1)	
○昭和59年度 家族周期と女子の就業行動に関する人口学的調査……………	河邊 宏技官 中野 英子技官 山本千鶴子技官 稲葉 寿技官

第44回人口問題審議会総会

人口問題審議会の第44回総会が、昭和60年12月4日(水)午後2時から4時すぎまで厚生省共用第9会議室において開催された。今回の会議は、次の2題の報告(カッコ内は報告者)をめぐっての審議が中心であった。

1. 第23回国連人口委員会について(岡崎陽一委員)
2. 最近における内外の人口動向について(河野稠果・阿藤誠両専門委員)

日本地理学会1985年度秋季大会

日本地理学会(会長:吉川虎雄東京農業大学教授)の1985年度秋季大会は、昭和60年10月19日(金)から22日(火)まで、岩手大学(岩手県盛岡市)において開催された。大会は、「地域振興と地理学」をテーマとした4つのシンポジウムのほかに、13の部会、14の研究委員会および3つの巡検から構成されていた。

一般報告で人口に関係する報告は少なかった。しかし、由井義通会員は「広島市の中高層集合住宅居住者の居住特性」を調査した結果から、管理的職業従事者は都心部に、「ホワイト・カラー的職業従事者」は周辺の集合住宅に、そして「ブルー・カラー的職業従事者」は郊外・工業地域に、それぞれ移動していることを示した。この報告は、都市内部の人口移動の特徴を明らかにするとともに、都心部のマンション建設の人口分布に及ぼす影響を指摘したものであり、興味深いものであった。

20日午後の人口移動研究グループによる研究委員会では、濱英彦成城大学教授司会のもとに次の3つの報告がなされた。

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| 年齢構造の変化と家族制度からみた戦後の人口移動の推移…………… | 厚生省人口問題研究所 伊藤 達也 |
| タイにおける出生力低下の地域分析…………… | 神戸大学 高橋 真一 |
| ラベンスティンによる人口移動法則の展開…………… | 愛知教育大学 小笠原節夫 |

各報告の後、活発な質疑討論が行われた。なお、小笠原報告は、人口移動の法則で有名なラベンスティンは、その生涯に3つの人口移動に関する論文(1876, 1885, 1889)を発表したが、引用されるのは専ら後二者であることから、これらの3つの論文を比較対照しながらその理由を探究したものであった。第一論文がその後引用されなくなった理由は、センサス結果を整理し、その後の論文で取り上げられた内容のほとんど全てが含ま